

CASBEE神戸 ver.3
(仮称)GLION本社ビル 新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸 ver.3

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE神戸 ver.3/CASBEE-BD

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.7
Q1 室内環境							0.40			3.3
1 音環境						3.2	0.15			3.2
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	3.0		
1.2 遮音						3.0	0.40			
1 開口部遮音性能						3.0	0.66	3.0		
2 界壁遮音性能						3.0	0.34	3.0		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	3.0		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	3.0		
1.3 吸音		床、天井に吸音材を採用している。				4.0	0.20	3.0		
2 温熱環境						2.6	0.35			2.6
2.1 室温制御						3.0	0.50			
1 室温						3.0	0.39	3.0		
2 外皮性能						3.0	0.24	3.0		
3 ゾーン別制御性						3.0	0.37			
2.2 湿度制御						1.0	0.20	3.0		
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0		
3 光・視環境						4.0	0.25			4.0
3.1 昼光利用						2.4	0.34			
1 昼光率						2.0	0.52			
2 方位別開口							-			
3 昼光利用設備						3.0	0.48	3.0		
3.2 グレア対策						5.0	0.25			
1 昼光制御		各階に庇を設け、自動制御ブラインドを設けることで昼光を制御す照度を500lx1000lx未満とした。				5.0	1.00	3.0		
3.3 照度						4.0	0.13	3.0		
3.4 照明制御		1作業単位で照明制御をし、自動照明制御を出来るようにした。				5.0	0.28	3.0		
4 空気質環境						3.8	0.25			3.8
4.1 発生源対策						4.0	0.50			
1 化学汚染物質		内装材はF☆☆☆☆を70%以上使用している。				4.0	1.00	3.0		
4.2 換気						3.6	0.30			
1 換気量		30m ³ /h人以上の換気量を確保した。				4.0	0.36	3.0		
2 自然換気性能		自然換気有効開口部を居室床面積の1/30以上とした。				4.0	0.29	3.0		
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.36	3.0		
4.3 運用管理						4.0	0.20			
1 CO ₂ の監視						3.0	0.50			
2 喫煙の制御		専用の喫煙ブースを設けている。				5.0	0.50			
Q2 サービス性能							0.30			3.7
1 機能性						4.3	0.40			4.3
1.1 機能性・使いやすさ						4.2	0.40			
1 広さ・収納性		1人当たりの執務スペースが大きくなるよう計画した。				4.0	0.27	3.0		
2 高度情報通信設備対応		各階Gigabit通信回線を引き込む計画とした。				5.0	0.27	3.0		
3 バリアフリー計画		バリアフリー新法(最低限のレベル)を満たしている。				4.0	0.45			
1.2 心理性・快適性						4.6	0.30			
1 広さ感・景観		天井高を2.8mと計画した				4.0	0.32	3.0		
2 リフレッシュスペース		給湯室に自動販売機スペースを設け、R階に屋上庭園を設置している。				5.0	0.31			
3 内装計画		内装パースを作成した。				5.0	0.37			
1.3 維持管理						4.0	0.30			
1 維持管理に配慮した設計		各階の庇天端に害鳥対策をしている。				4.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保		各階にSKを計画している。				4.0	0.50			
2 耐用性・信頼性						3.3	0.30			3.3
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数						3.9	0.30			
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		屋内のダクトは亜鉛板製とし、屋外はガルバリウム鋼板製を採用した。				4.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給排水管に更新必要間隔がB以上の管を採用した。				5.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔		更新必要間隔を30年以上の機器を用いている。				5.0	0.20			
2.4 信頼性						3.6	0.20			
1 空調・換気設備		換気の重要度に応じて系統を区分する計画としている。				4.1	0.20			
2 給排水・衛生設備						2.0	0.20			
3 電気設備						3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法		地震後に大きな補修を行うことなく設備が維持できる計画としている。				4.0	0.20			
5 通信・情報設備		災害時にも情報を取得できる計画としている。				5.0	0.20			

3 対応性・更新性			3.4	0.30	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			4.5	0.30	-	-	
1 階高のゆとり		階高を高く確保し、天井内にゆとりをもたせた計画とした。	5.0	0.57	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ		空間の形状は利用しやすいように縦長比を配慮した計画とした。	4.0	0.43	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	4.1
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		地区全体での外観意匠の調整を行いながら計画している。	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮		街区をベテ ストリアンデッキ キで結び、回 遊出来る計 画としている	4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		緑に溢れる南北の通り抜け動線をつくる計画とした。	4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		中高木を植樹することにより日陰を形成し温熱環境を緩和している。	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	2.8
1 建物外皮の熱負荷抑制		開口部にはLow-E複層ガラスを用いる計画としている。	3.8	0.20	-	-	3.8
2 自然エネルギー利用		開口部を大きく設け太陽光を利用する計画とした。	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化			2.1	0.50	-	-	2.1
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.8
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水コマを採用している。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.7	0.60	-	-	3.7
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		リサイクル資材を2種使用している。	5.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		OAフロアを使用している。	5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.20	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		有害物質を含まない材料を使用している。	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1 消火剤		不活性ガス消火剤を使用している。	4.0	0.33	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		ODP=0かつGWPが低い発泡剤を用いた断熱材を使用している。	5.0	0.33	-	-	
3 冷媒			3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.7	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		荷捌用車両の駐車施設を確保している。	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		ゴミの減容化の為に空き缶プレスを設置する。	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.50	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			3.0	0.50	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		照明デザインの専門家を交えて計画した。	4.0	0.70	-	-	
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	